

彙 報

令和五年度密教文化研究所だより

本年度、密教文化研究所では、「弘法大師の思想とその展開に関する研究」「密教の形成と流伝に関する研究」「密教と現代社会の諸問題に関する研究」を事業の柱として、研究所研究員を中核とした研究活動を展開し、伝統教学の継承と社会への普及に努めた。各々の活動の詳細については、左記のとおりである。

【研究会】

○研究所研究会

※趣旨

研究所員・研究員の研究成果発表および学術的交流を趣旨とする。

※活動実績

第一回 一月二十六日（金）於…高野山大学第一会議室

徳重弘志『『上井覚兼日記』に基づく十六世紀の島津氏領内における信仰形態』

第二回 二月十六日（金）於…高野山大学第一会議室

大家秀夫「唯識派の三性説を再考する―三性説の再構築―」

第三回 三月一日（金）於…高野山大学第一会議室

範駿「中華民国時代に高野山への中国人の留学僧（一）」

―純密と大勇を中心に―

木下智雄「豊山相伝の御流神道について」

―『御流神道灌頂雜事理記』を中心に―

揚軍「金光明最勝王経に関する研究」

―十六大菩薩への影響―

○弘法大師著作研究会

※趣旨

研究所の事業の柱に、「弘法大師の思想とその展開に関する研究」がある。本研究をおこなっていくためには、空海の文章を漢籍、注釈書を踏まえ正確にかつ忠実に読解していく作業が必要不可欠である。平成二十七年から弘法大師の著作をテキストとして研究会を開催し、その研究成果を公表する。

※会員

川崎一洋・北川真寛・櫻木潤・佐藤隆彦・土居夏樹・徳重弘志・那須真裕美・藤田光寛・松長潤慶・南昌宏・米田弘仁

※活動実績

『秘密曼荼羅十住心論』の研究会を、令和五年度は五回開催した。

（発表者及び日程）

米田弘仁・十月五日・十一月十六日・十二月十四日・二月十五日・三月二十一日

※刊行物

研究会の成果は、『密教文化研究所紀要』別冊として次年度の成果とあわせて発行予定。

○南山教学研究会 令和五年度活動報告

兼任研究所員 北川真寛

【研究活動概況】

南山教学研究会では、高野山に伝わる論義書の研究、ならびにそれらの整理作業をすめ、弘法大師を含めた真言密教の展開を明らかにし、教学研究のみならず現在も続けられている論義法会に資することで、密教興隆を図ることを目的として活動している。

そのため、平成二十五年度に密教文化研究所所員の研究所員や研究員を中心とした有志による南山教学研究会を発足させた。令和五年度は、次のような活動を実施している。

①南山の論義書の輪読会

②論義に関する調査・研究

③南山・智山・豊山による論義研究会の会報の発行

④宗学連携事業

i 高野山勸学会への協力

・勸学会における講義の実施

・勸学会で用いられる『本書』と『打集』の活字化と校訂

ii 山内論義で用いられる論義資料の調査と辞典作成

これらの総合的かつ横断的な活動により、南山教学の特徴を少しずつ解明している。

ただしまだまだ多くの論題が残っていて、今後もさらにこれらの活動を進めていく。

参加者…土居夏樹 研究所員・高野山大学教授

北川真寛 研究所員・高野山大学准教授（事務局）

南 昌宏 高野山大学教授

中西雄泰 高野山引撰院

高井知弘 高野山菩提心院

高岡隆真 高野山明王院

内海周浩 高野山本願院

森 寛賢 金剛峯寺法会課

八尾康善 高野山聖無動院

木下智雄 研究員

小林拓夢 高野山大学助手

大北祥之 大学院生

根本享典 大学院生

その他、山内寺院住職・大学院生・大学生など

【研究発表・学術論文】

・一〇月二二日（土） 日本密教学会 於別院真福寺

・北川真寛「三妄同時について——論義書を中心に——」（『密教学研究』五六）

【真言教学研究会】

・九月一二日（火） 於別院真福寺

講演会「論義・堅義・談義——寺内修学制度に関わって——付・堂衆の修学」

講師・苦米地誠一氏（大正大学名誉教授）

・三月二一日（月） 於大正大学

「十地仏果・仏果開合」

発表者…小林拓夢、笠原隆宏・佐藤憲英（大正大学大学院生）

【宗学連携事業】

・勸学会の期間中に、勸学会出仕者に対して講義を行った（事六度について）。

・『菩提心論』の『本書』の書き下し文作成、『打集』のテキストデータ化と書き下し

文作成を行い、特に『打集』には語註を添付。また『本書』や『打集』の誤植や誤

りを校訂した。

・法談論義で使われる専門用語や、宝門と寿門で読み方が異なる語句など、問講にお

いて参考となる字典（辞典）の作成を目指して、資料の収集や選定、項目の入力作

業を行った。

※宗学連携事業に関しては、主に北川真寛が担当し、問講の辞典に関しては総本山金

剛峯寺法会課・高野山山内住職会と共同で活動している。

○密教文献英訳推進会（令和三年度より開始）

※趣旨

高野山大学・高野山真言宗・高野山住職会の宗学連携事業。

弘法大師及び密教に関する英文資料を作成し、英語文化圏の人たちへの布教・伝道

に役立て、広く人類の幸福と社会の発展に寄与する。

※担当

トーマス・ドライトライン（本学名誉教授）

※活動実績

弘法大師関係の資料収集、英文による入門書等の作成を遂行中。

【論文】

An Annotated Translation of Kūkai's Jijishin ron, Fascicle One

(空海選『十住心論』第一巻の英訳研究) 密教文化研究所紀要 第36号

An Annotated Translation of Kūkai's Jijishin ron, Fascicle Two

(空海選『十住心論』第二巻の英訳研究) 高野山大学論叢 第58号

An Annotated Translation of Kūkai's Jijishin ron, Fascicle Three

(空海選『十住心論』巻第三の英訳研究) 本誌掲載

An Annotated Translation of the Practice Manuals of the Thirty-three Deities of Chin-ryū

(中院流三十三尊法の英訳研究) 密教文化研究所紀要 別冊刊行

○巡礼遍路研究会(協力事業)

事務局 和歌山県伊都郡高野町高野山三八五 高野山大学密教文化研究所内

会員数 二七名(二〇二四年一月一日現在)

会長 柴谷 宗叔(高野山大学非常勤講師)

名誉会長 山陰加春夫(高野山大学名誉教授)

事務局長 谷口 眞梁(四国二十二番平等寺住職)

二〇二三年度活動

二〇二三年五月十五日 会誌『巡礼遍路研究』第八号発行

二〇二三年六月十八日 第九回研究発表会兼総会

場 所…総本山善通寺遍照閣(香川県善通寺市)

基調講演…菅智潤・総本山善通寺管長「善通寺と弘法大師」

研究発表…南地伸昭「西国および四国巡礼ツーリズムの経験価値」

象屋吉兆「神戸四國の研究」

靈場紹介…遠藤貴光「伊豆八十八ヶ所霊場」

参加者…二十七人

二〇二三年十二月三十一日 会誌『巡礼遍路研究』第九号発行

【講演会】

○人権講演会

日程…令和五年十一月一日(水)

場所…高野山大学二〇三号教室

講師…青山薫(神戸大学院国際文化科学研究科教授)

「日本におけるパートナーシップの意味と実際」

【その他事業】

○高野山聖教調査研究

清浄心院文書の調査を継続する傍ら、他寺院関連の史料につき、自治体史を中心として収集中。

○博字連携事業

御影堂文書の調査を継続。今年度は番外六箱分の調書を継続中。

○ゴルドン文庫調査研究

令和四年度より図書館から移管した事業。図書館が所蔵するゴルドン夫人関係の資料を調査研究する。

○龍光院文書調査研究

令和四年度より図書館から移管した事業。図書館が所蔵する龍光院の古文書・聖教類を調査研究する。

令和五年度研究活動報告

専任研究員 徳重 弘志

【研究活動概況】

筆者は、高野山大学密教文化研究所が掲げる三大研究領域（弘法大師の思想とその展開に関する研究、「密教の形成と流伝に関する研究」、「密教と現代社会の諸問題に関する研究」）のうち、「密教の形成と流伝に関する研究」に従事している。

本年度の成果としては、① *Guhyananilika* 第三章におけるマンダラの特徴の指摘、② *Guhyananilika* 第三章の部分的なチベット語訳校訂テキストおよび和訳の作成、③ インド密教における敬愛法の受容過程の解明、といった三点が挙げられる。

①に関しては、*Guhyananilika* 第三章における「降三世マンダラ」が、その名称や尊格の構成に関しては『真実撰経』を踏襲しつつも、中心となる如来が大毘盧遮那ではなく阿閼になつていふ点を指摘した。また、同章における「母天たちの母音のマンダラ」に関しては、同経典の第四章や第五章の記述を根拠として、当該のマンダラに配置される四人の女尊たちの名称を特定した。

②に関しては、①で研究対象とした *Guhyananilika* 第三章のマンダラについて、そのチベット語訳校訂テキストおよび和訳を作成した。なお、①・②は「科学研究費」による研究成果の一部である。

③に関しては、密教において護摩の際に行われる「敬愛法」に関して、その受容過程の解明を試みた。さて、先行研究が指摘しているように、グリヒヤストラには「敬愛法」が説かれている。しかし、その内容は密教の修法とは大きく相違しており、バラモン教から密教へと直接的に「敬愛法」がもたらされたとは考え難い。そのため、両者の中間形態が存在すると予想した上で、『摩登伽経』に説かれる「マータンガ族の敬愛法」に着目した。同修法は、その内容や年代を根拠として、密教に影響を与えた蓋然性が高いと判断することができる。

【研究発表】

- ・「密教における敬愛法の受容について」、密教研究会学術大会、

七月八日（土）、於 高野山大学。

【論文】

- ・*Guhyananilika* 第三章におけるマンダラについて、日本印度学仏教学会 第七十四回学術大会、九月三日（日）、於 龍谷大学（オンラインリモート会議システムによる開催）。

- ・*Guhyananilika* 第三章におけるマンダラについて、『印度学仏教学研究』第七十二巻（掲載予定）。

- ・*Guhyananilika* 第三章のチベット語訳校訂テキストおよび和訳(1)、

- 『高野山大学密教文化研究所紀要』第三十七号（掲載予定）。

- ・インド密教における敬愛法の受容について、『密教文化』第二五・二五二号（掲載予定）。

密教文化研究所構成員名簿

(令和六年三月現在 各々五十音順)

○所長

佐藤隆彦 (高野山大学教授)

○専従研究所員

菊谷竜太 (高野山大学准教授)

坂口太郎 (高野山大学准教授)

櫻木潤 (高野山大学准教授)

○兼任研究所員

北川真寛 (高野山大学准教授)

土居夏樹 (高野山大学教授)

野田悟 (高野山大学教授)

松長潤慶 (高野山大学教授・副学長)

溝端悠朗 (高野山大学専任講師)

南昌宏 (高野山大学教授・図書館長)

森本一彦 (高野山大学教授)

○専任研究員

徳重弘志 (高野山大学非常勤講師)

○委託研究員

奥山直司 (高野山大学名誉教授)

川崎一洋 (高野山大学特任教授)

趙新玲

トーマス・ドライトライン (高野山大学名誉教授)

那須真裕美 (高野山大学非常勤講師)
米田弘仁 (高野山大学非常勤講師)

○受託研究員

井川裕寛

伊藤信明

大家秀夫

奥風栄弘

小田博志

木下智雄

木下浩良

金海

静春樹

柴谷宗叔

橋本弘文

範駿

楊軍

○研究所事務局

木下浩良

『密教文化研究所紀要』編集委員会規程

第1条 密教文化研究所（以下「研究所」という。）に、『密教文化研究所紀要』（以下「紀要」という。）編集委員会（以下「編集委員会」という。）を設ける。

第2条 編集委員会は、次の委員をもって構成する。

- （1） 研究所長
- （2） 専従研究所員
- （3） 「紀要」編集担当者
- 2 編集委員長は研究所長がこれに当たる。研究所事務室長は、幹事として編集委員会の事務を処理する。

第3条 編集委員会は研究所長が招集し、その議長となる。議長に事故ある時は、互選によって議長を選出する。

第4条 編集委員会は、次の事項を審議し、研究所協議会に報告する。

- （1） 「紀要」に寄稿された原稿の掲載の可否および掲載の時期の決定。
- （2） 「紀要」寄稿者への補筆および修正の要請。

第5条 委員の任期は1年とする。ただし重任を妨げない。

第6条 この規程の改廃は、研究所協議会の議を経て、研究所長が決定する。

附則 この規程は、平成9年4月1日から施行する。

附則 この規程は、平成14年5月22日から施行する

『密教文化研究所紀要』寄稿規程

第1条 「密教文化研究所紀要」（以下「紀要」という。）は、日本およびアジア地域などにおける密教の思想と文化に関する研究論文、研究ノート、研究資料、書評などを掲載発表することにより、密教文化の研究の発展に寄与することを目的とする。

第2条 「紀要」に寄稿することができる者は、次のとおりとする。

- （1） 研究所長
- （2） 研究所員
- （3） 研究員
- （4） 編集委員会が適当と認める者

第3条 原稿は、原則として400字詰原稿用紙70枚以内とする。

第4条 原稿は完全原稿とする。執筆者校正は再校までとし、校正時の大幅な改変・追加等は認めない。

第5条 寄稿された原稿は、査読委員会の査読を経て、編集委員会が掲載の可否および掲載の時期を決定する。また、編集委員会は、寄稿者に補筆および修正を求めることができる。

第6条 原稿料の支払い、掲載料の徴収は行なわない。

第7条 寄稿者には、掲載誌2部および抜刷30部を贈呈し、その経費は研究所が負担する。

附則 この規程は、平成9年4月1日から施行する

執筆者紹介（掲載順）

木下浩良	密教文化研究所受託研究員
大家秀夫	密教文化研究所受託研究員
徳重弘志	密教文化研究所専任研究員
小田博志	密教文化研究所受託研究員
静春樹	密教文化研究所受託研究員
トーマス・ドライトライン	密教文化研究所受託研究員・高野山大学名誉教授
テンジン・ウセル	高野山大学特任教授
藤田光寛	高野山大学名誉教授

編集後記（所長）

- 『高野山大学密教文化研究所紀要』第三十七号をお届け致します。
- 八人の執筆者による論考は、本年度の密教文化研究所の研究成果の一端を飾るものです。読者諸氏におかれましては、ご指導ご鞭撻の程お願い申し上げます。
- 今年度も『密教文化研究所紀要』別冊を刊行しました。トーマス・ドライトライン先生の執筆による「中院流三十三尊法の英訳研究」です。同文献が国内外で活用されることを願います。
- 専任研究員の徳重弘志先生が、密教図像学会から今年度「佐和隆研博士学術研究奨励金」を受賞されました。この賞は同学会から、若手の優秀な研究論文に対して授与されるものです。先生のますますのご活躍を祈念します。なお、受賞論文は「宋代における九鉈杆・九鉈鈴の意図と用途」です。
- 今年度は悲しい出来事がありました。本研究所顧問の松長有慶先生が、令和五年四月十六日ご遷化なされました。本研究所や本学・真言宗のみならず、先生の仏教界への様々な貢献の数々は筆舌に尽くしがたいものがあります。心から先生のご冥福をお祈りいたします。
- 今年度はまさに哀歓の歳でしたが、今後とも密教文化研究所の活動にお力添えの程、よろしくお願い申し上げます。

高野山大学密教文化研究所紀要 第三十七号

令和六年三月二十一日 印刷
令和六年三月二十五日 発行

編集者 密教文化研究所

代表者 佐藤 隆彦

発行所 密教文化研究所

和歌山県伊都郡高野町高野山三八五 高野山大学
電話(〇七三六)五六―二三九〇 千六四八―〇二八〇

印刷所 株式会社 協和

和歌山県海南市南赤坂五―三
電話(〇七三)四八三―五二二一 千六四二―〇〇一七